

他党批判は逆効果

6割が悪印象

【三】衆議院選で、対立政党を批判するCMを見た人の約6割が、批判された政党ではなく、批判した政党側に対して悪い印象を持ったことが12

日、情報通信学会「問メディア社会研究会」の調査で分かった。研究会の遠藤憲学習院大教授は、自民党が民主

党の政策を批判するアニメCMをネットで公開したり、ビラや冊子を配布したりしたのは「日本で初めての本格的なネガティブキャンペーンだった」と指摘。逆効果に

なっていたことが調査で明らかとなり、「有権者は良識を持って行動している」と分析している。調査は衆院選後の8月31日と今日1日の両日、選挙に投票した20代から60代の男女千人を対象に、インターネットを通

じ、メディアが投票行動に及ぼす影響を調べた。それによると、45・5%の人がネガティブCMを見ており、そのうちの63・5%が批判する政党に対して悪印象を受けた。自民党に投票した人

の33%もネガティブCMについて悪い印象を持ったと答えた。インターネットの情報重要と感じる人の割合は全体の57・3%。20代では76%が重要と答え、58%の新聞、75・5%のテレビを上回った。